

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2016年第2週
(1月11日～1月17日)

- * 2016年1月20日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「新たな人獣共通感染症」も掲載しています。

平成28(2016)年1月21日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2016年2週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		52週	53週	1週	2週	年累計	2週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	49	38	66	52	118	257	627
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}							
三類	コレラ							
	細菌性赤痢			1	1	2	5	7
	腸管出血性大腸菌感染症	1		1	3	4	13	26
	腸チフス	1			2	2	3	3
	パラチフス				2	2	1	2
四類	E型肝炎	5		2		2	4	16
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎						2	6
	エキノコックス症							
	黄熱							
	オウム病							
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*4}							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							
	つつが虫病	1					10	19
デング熱	1	1	3	3	6	7	17	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		52週	53週	1週	2週	年累計	2週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							1
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア							
	野兔病							
	ライム病							
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
レジオネラ症	3	1	2	1	3	20	40	
レプトスピラ症								
ロッキー山紅斑熱								

2016/1/20集計

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 52件 肺結核 23件、その他の結核 10件、肺結核及びその他の結核 1件、無症状病原体保有者 17件、疑似症 1件、年齢は10歳未満 4件(うち5歳未満 2件)、10代 3件、20代 7件、30代 1件、40代 3件、50代 3件、60代 9件、70代 10件、80代 11件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 45件、ベトナム 2件、中国 2件、ミャンマー 1件、国内又は国外(渡航先不明) 2件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 患者、菌種はソンネ、年齢は30代、推定感染地はインドネシア(ロンボク島)、推定感染経路は不明であった。

腸管出血性大腸菌感染症 3件 患者 2件(うちHUS発症 1件)、無症状病原体保有者 1件、血清型・毒素型はO26 VT1・VT2 1件、O26 VT2 1件、O26 VT型不明 1件、年齢は5歳未満 1件、20代 2件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は経口感染 1件、不明 2件であった。

腸チフス 2件 患者 2件、年齢は40代 1件、60代 1件、推定感染地はネパール 2件、推定感染経路は経口感染 1件、不明 1件であった。

パラチフス 2件 患者 2件、年齢は20代 1件、30代 1件、推定感染地はインド 1件、タイ又はインドネシア又はシンガポール 1件、推定感染経路は経口感染 2件であった。

〈四類感染症〉

デング熱 3件 患者 3件、病型はデング熱 3件、血清型は1型 1件、不明 2件、年齢は20代 2件、30代 1件、推定感染地はインドネシア 1件、フィリピン 1件、ベトナム 1件であった。

レジオネラ症 1件 病型は肺炎型、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2016年2週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		52週	53週	1週	2週	年累計	2週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	6	3	2	6	8	12	31
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1	1	1	1	2		4
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 *2	6	1	2	3	5	14	46
	急性脳炎 *1	2	1	4	2	6	4	14
	クリプトスポリジウム症							
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1		1	1	5
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	4	5	6	17
	後天性免疫不全症候群	9	5	9	11	20	20	48
	ジアルジア症			1		1	1	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		1		1	5	15
	侵襲性髄膜炎菌感染症						2	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	6	5	6	12	18	47	139
	水痘(入院例に限る) *2	1	1	3	1	4	2	13
	先天性風しん症候群							
	梅毒	24	12	29	39	68	53	108
	播種性クリプトコックス症 *2							4
	破傷風						3	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
バンコマイシン耐性腸球菌感染症							2	
風しん						1	2	
麻しん						1	1	
薬剤耐性アシネトバクター感染症 *2	1							

2016/1/20集計

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*2 2014年9月19日より新たに追加指定された。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

（五類感染症）

アメーバ赤痢 6件 病型は腸管 6件、年齢は30代 1件、40代 3件、50代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 6件、推定感染経路は両性間性的接触 1件、不明 5件であった。腸管アメーバ症のうち1件は、第2週報告の後天性免疫不全症候群(AIDS)と同一人物であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型、劇症肝炎発症、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、B型肝炎ワクチン接種歴は無しであった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 3件 患者 3件、病原菌はエンテロバクター・クロアカ 2件、クレブシエラ・オキシトカ 1件、年齢は70代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は手術部位感染 1件、以前からの保菌 1件、不明 1件、90日以内の海外渡航歴は無し3件であった。

急性脳炎 2件 病原体はインフルエンザウイルスB型 1件、単純ヘルペスウイルス 1件、年齢は10歳未満 2件(うち5歳未満 1件)、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は不明 2件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 4件 血清群はA群 4件、年齢は40代 1件、70代 3件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は創傷感染 2件、不明 2件であった。

後天性免疫不全症候群 11件 AIDS 3件、無症候キャリア 6件、その他 2件、AIDS患者の年齢は40代 2件、50代 1件、無症候キャリア及びその他の年齢は10代 1件、20代 3件、30代 1件、40代 2件、60代 1件、推定感染地は国内 8件、タイ 1件、中国 1件、不明 1件、推定感染経路は性的接触 8件(同性間 4件、異性間 3件、両性間 1件)、同性間性的接触又は静注薬物使用 1件、不明 2件であった。AIDSのうち1件は、第2週報告のアメーバ赤痢(腸管)と同一人物であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 12件 血清型は検査未実施 12件、年齢は5歳未満 2件、30代 1件、40代 1件、60代 4件、70代 2件、80代 1件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 12件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、不明 10件、肺炎球菌ワクチン接種歴は13価4回接種済み 2件、無し 6件、不明 4件であった。

水痘(入院例) 1件 検査診断例、年齢は5歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染又は接触感染(家族内感染)、水痘ワクチン接種歴は無しであった。

梅毒 39件 早期顕症梅毒Ⅰ期 6件、早期顕症梅毒Ⅱ期 21件、無症候梅毒 12件、年齢は20代 14件、30代 7件、40代 12件、50代 3件、60代 3件、推定感染地は国内 37件、シンガポール 1件、国内又は国外(渡航先不明) 1件、推定感染経路は性的接触 37件(同性間 21件、異性間 10件、性別不明 6件)、不明 2件であった。

※ 2015年第48週該当分として〔五類〕カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件の追加報告があった。

※ 第1週該当分として〔五類〕アメーバ赤痢 1件、クロイツフェルト・ヤコブ病 1件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 2件、水痘(入院例) 1件、梅毒 1件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2016年2週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2015年		2016年		報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		52週	53週	1週	2週		
小児科	RSウイルス感染症	277	113	154	88	262	264
		1.06	0.47	0.59	0.34		
	咽頭結膜熱	133	57	100	51		
		0.51	0.23	0.38	0.19		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	839	274	494	616		
		3.21	1.13	1.90	2.35		
	感染性胃腸炎	3,381	1,176	2,142	2,253		
		12.95	4.84	8.24	8.60		
	水痘	235	98	255	142		
		0.90	0.40	0.98	0.54		
	手足口病	13	3	11	16		
		0.05	0.01	0.04	0.06		
	伝染性紅斑	116	47	101	110		
		0.44	0.19	0.39	0.42		
突発性発しん	97	53	85	133			
	0.37	0.22	0.33	0.51			
百日咳	3		6				
	0.01		0.02				
ヘルパンギーナ	5	2	3	5			
	0.02	0.01	0.01	0.02			
流行性耳下腺炎	154	63	205	192			
	0.59	0.26	0.79	0.73			
川崎病 *1	7	2	8	1			
	0.03	0.01	0.03	0.00			
不明発しん症 *1	22	4	12	15			
	0.08	0.02	0.05	0.06			
インフル エンザ	インフルエンザ *2	304	168	683	1,573	415	419
		0.74	0.43	1.66	3.79		
眼科	急性出血性結膜炎					39	39
	流行性角結膜炎	21	9	23	23	39	39
		0.54	0.24	0.59	0.59		
基幹	細菌性髄膜炎 *3	1	1			25	25
		0.04	0.04				
	無菌性髄膜炎		1	1			
			0.04	0.04			
	マイコプラズマ肺炎	30	20	51	29		
		1.20	0.80	2.04	1.16		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	2			1			
	0.08			0.04			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) *4	2	1					
	0.08	0.04					
インフルエンザ入院	7	3	8	9			
	0.28	0.12	0.32	0.36			

2016/1/20集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は増加が続いている。
- ・ 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、過去5年平均より高い値で推移している。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2016年2週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	14			12	4			2			
6～11か月	31	2	1	149	4	2	1	38			
1歳	28	12	12	365	8	8	2	66			3
2歳	8	10	33	247	11	1	3	19			5
3歳	6	6	44	189	12	2	9	5		1	12
4歳	1	6	81	175	21		21	2			16
5歳		4	78	162	24	1	19	1		1	33
6歳		4	77	118	15	1	18			1	20
7歳		1	74	85	15		16				26
8歳		1	45	73	11		8			1	29
9歳			49	80	6		8				22
10～14歳		3	84	213	8	1	4				19
15～19歳			7	76	2						2
20～29歳		2	31	309	1		1			1	5
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	88	51	616	2,253	142	16	110	133		5	192
先週比	-66	-49	122	111	-113	5	9	48	-6	2	-13

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月			4								1
6～11か月		3	16								
1歳		6	69		1						
2歳		2	82		1						
3歳			86					1			
4歳		3	93					1			
5歳			105					1			
6歳		1	106					2			
7歳			95					2			
8歳			91					2			1
9歳	1		80					2			
10～14歳			159					12			1
15～19歳			65								
20～29歳			93		6						
30～39歳			165		7			3			
40～49歳			134		3						
50～59歳			76		3			1			2
60～69歳			29								3
70～79歳			18		2						1
80歳以上			7					2	1		
合計	1	15	1,573		23			29	1		9
先週比	-7	3	890				-1	-22	1		1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数 【保健所別】 2016年2週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田		0.33	0.33	1.67			0.33				
中央区			2.00	11.67				1.67			
みなと	0.67	0.83	1.83	6.17	0.50			0.33			0.83
新宿区	0.50	0.13	1.00	5.63	0.38		0.13	0.63			
文京		0.25		8.75	0.75		0.25	0.25			0.50
台東	0.25	0.25	1.25	14.00	0.75	2.50	0.25	0.75			0.50
墨田区	0.20		1.20	4.40	0.80		0.80	1.00			0.20
江東区	0.33		3.89	14.67	0.67		0.33	0.44			1.00
品川区	0.13		0.63	4.50	0.25		0.25	0.25			0.75
目黒区	0.20		2.20	9.20	0.80		0.20	0.80			
大田区	0.54	0.46	3.31	12.46	0.31		0.31	0.77			
世田谷	0.38	0.31	3.69	7.25	0.63		0.63	0.44			0.13
渋谷区				8.25	0.75						
中野区	0.50		1.33	13.67		0.17	0.83	0.33			
杉並	0.30		1.20	5.70	0.70	0.10	0.60	0.50			0.20
池袋	1.50	0.25	0.50	3.50	0.50		0.50				
北区		0.43	1.43	7.57	0.43			0.71			0.14
荒川区	1.50		4.00	5.50	1.75			1.00			1.25
板橋区		0.10	0.70	3.70	0.30			0.30			
練馬区		0.08	3.31	8.62	0.62			0.23		0.31	0.23
足立	0.38	0.23	2.46	9.69	0.92		0.69	0.54			2.23
葛飾区	0.50	0.25	1.38	10.38	0.50		1.38	0.50			0.13
江戸川	0.25	0.17	2.75	15.17	0.25		0.33	0.25			1.50
八王子市	0.64	0.27	3.27	13.18	0.64		0.55	0.82			1.64
町田市	0.13	0.13	3.13	11.00	0.50	0.13	0.75	0.63			
西多摩	0.13	0.13	2.63	8.38	0.25		1.13	0.25			0.88
南多摩	0.33	0.11	3.89	8.67	0.11		0.78	0.89		0.11	0.56
多摩立川	0.14		2.79	6.00	0.29	0.07	0.29	0.50			0.29
多摩府中	0.43	0.24	1.38	7.05	0.71		0.29	0.48			2.05
多摩小平	0.47	0.47	4.47	7.67	1.00	0.13	0.47	0.53			1.93
島しょ											
東京都	0.34	0.19	2.35	8.60	0.54	0.06	0.42	0.51		0.02	0.73

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田			7.00					1.00			1.00
中央区			3.80		2.00						
みなと			2.78					3.00	1.00		
新宿区			2.50		1.00			0.50			0.50
文京			5.29		3.00						
台東			2.33								
墨田区			2.88								
江東区			6.36								
品川区			1.58								
目黒区		0.20	4.25								
大田区		0.08	3.25		0.50						
世田谷	0.06	0.19	5.12					0.50			0.50
渋谷区			3.14		3.00			2.00			
中野区			5.30								
杉並			3.94								
池袋			3.00					1.00			2.00
北区			2.82								
荒川区			5.57		1.00						
板橋区		0.10	2.56								
練馬区			5.71		0.50						
足立			3.30								
葛飾区		0.13	3.92		3.00			5.00			1.00
江戸川		0.08	3.74								
八王子市		0.18	3.61		1.50			2.00			
町田市		0.25	5.23								
西多摩			4.64		1.00			1.00			
南多摩			2.71								
多摩立川			2.19					1.00			
多摩府中			3.76		0.33			3.00			0.67
多摩小平		0.20	3.30		1.00			0.50			
島しょ			1.00								
東京都	0.00	0.06	3.79		0.59			1.16	0.04		0.36

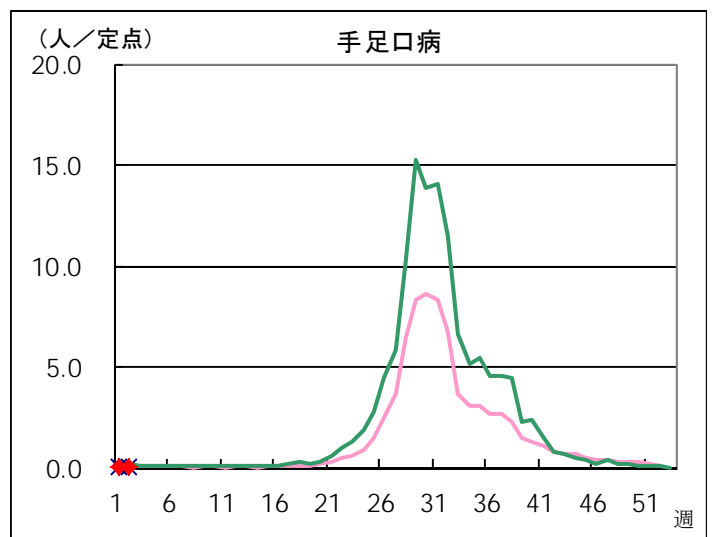
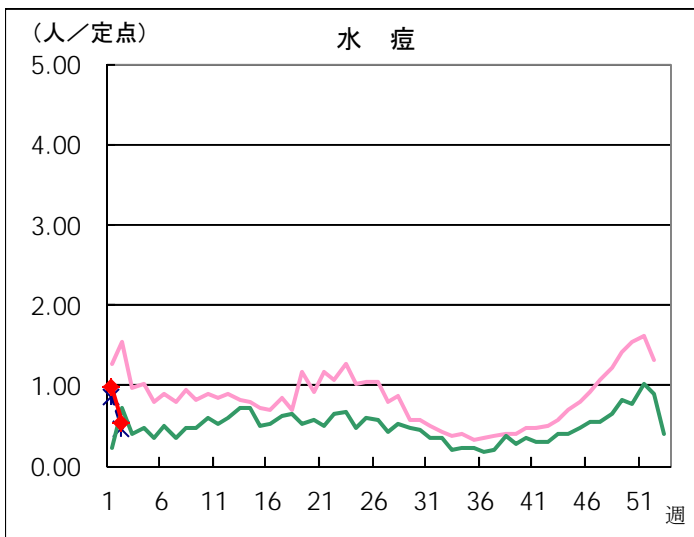
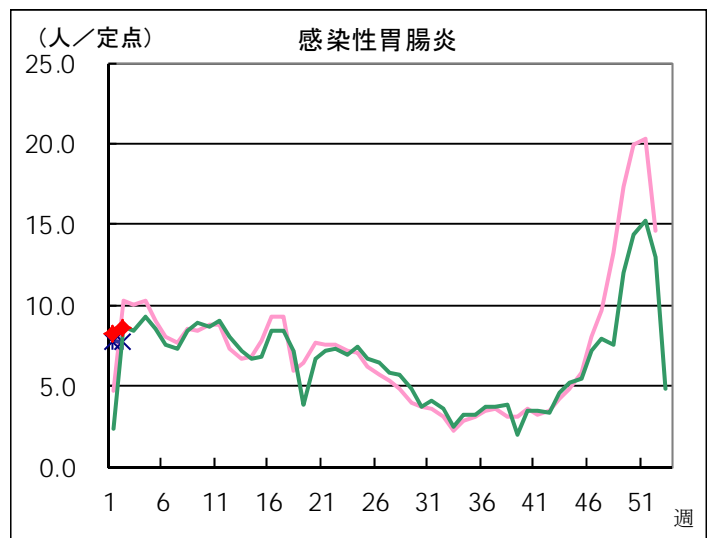
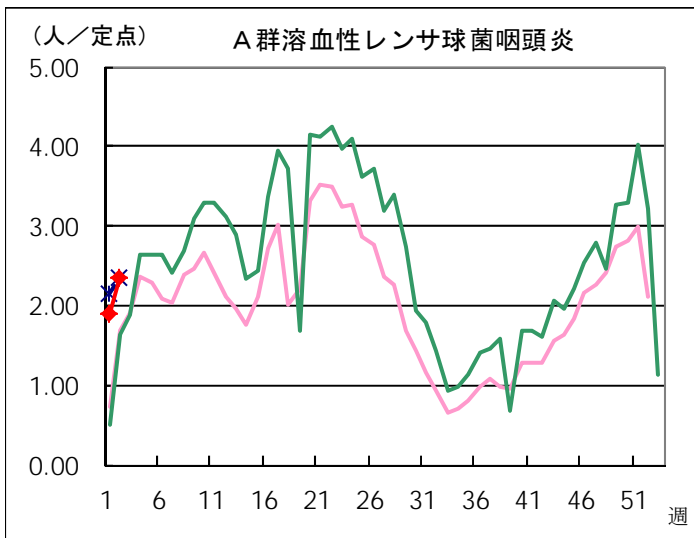
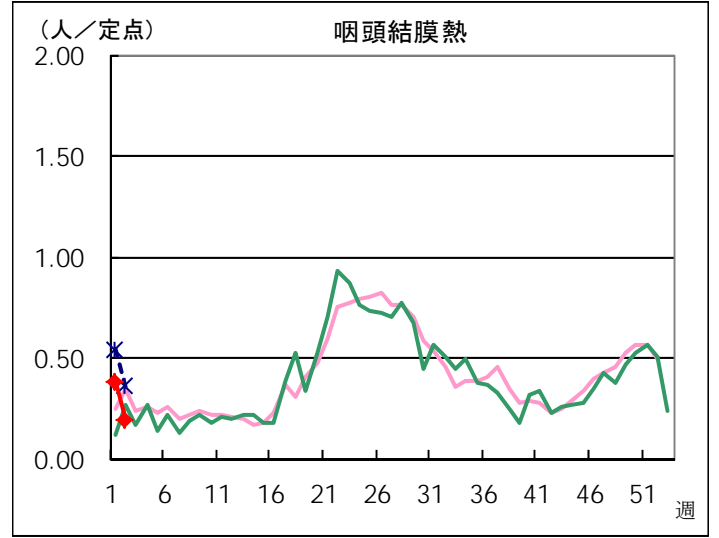
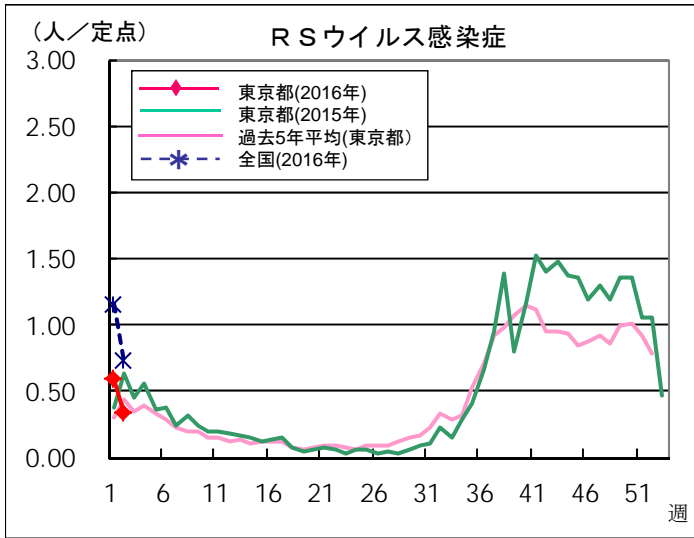
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2016年2週

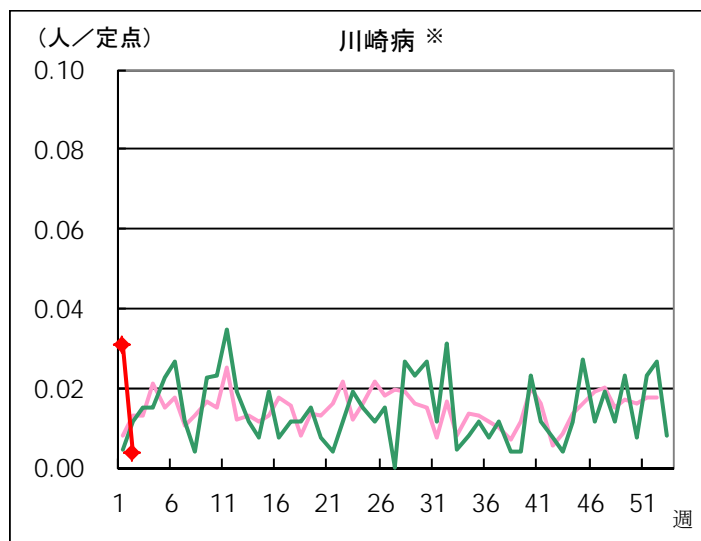
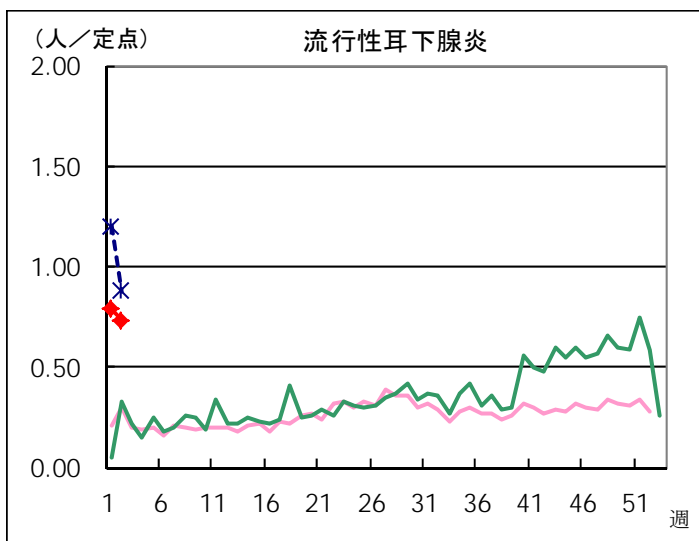
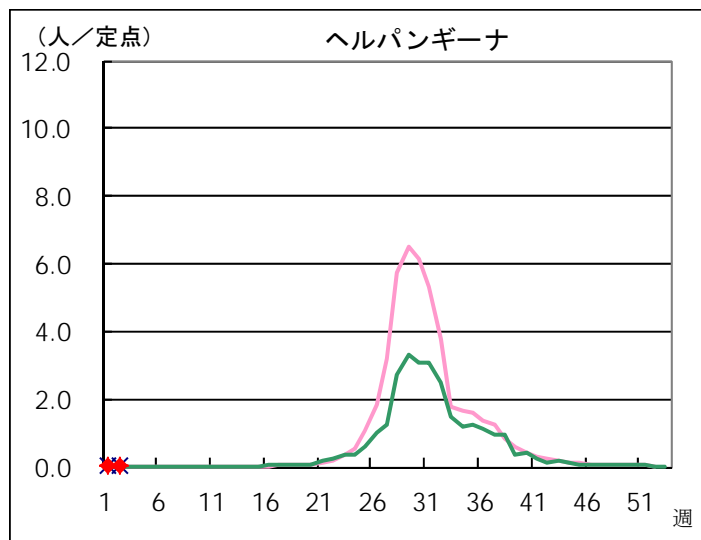
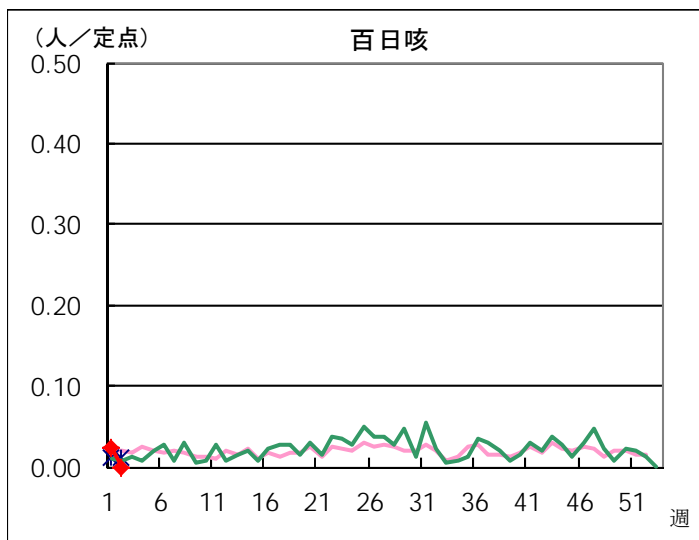
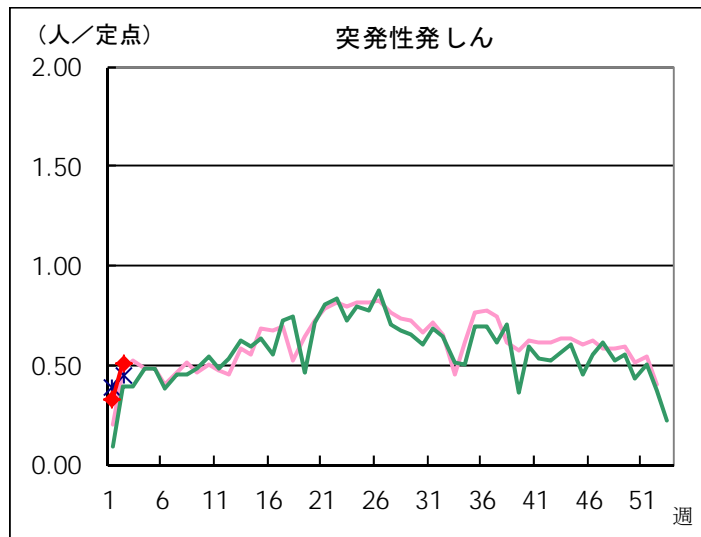
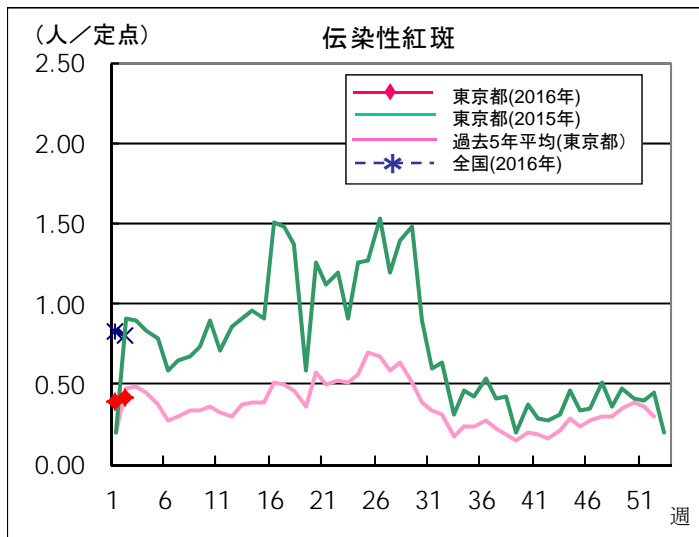
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田		1	1	5			1				
中央区			6	35				5			
みなと	4	5	11	37	3			2			5
新宿区	4	1	8	45	3		1	5			
文京		1		35	3		1	1			2
台東	1	1	5	56	3	10	1	3			2
墨田区	1		6	22	4		4	5			1
江東区	3		35	132	6		3	4			9
品川区	1		5	36	2		2	2			6
目黒区	1		11	46	4		1	4			
大田区	7	6	43	162	4		4	10			
世田谷	6	5	59	116	10		10	7			2
渋谷区				33	3						
中野区	3		8	82		1	5	2			
杉並	3		12	57	7	1	6	5			2
池袋	6	1	2	14	2		2				
北区		3	10	53	3			5			1
荒川区	6		16	22	7			4			5
板橋区		1	7	37	3			3			
練馬区		1	43	112	8			3		4	3
足立	5	3	32	126	12		9	7			29
葛飾区	4	2	11	83	4		11	4			1
江戸川	3	2	33	182	3		4	3			18
八王子市	7	3	36	145	7		6	9			18
町田市	1	1	25	88	4	1	6	5			
西多摩	1	1	21	67	2		9	2			7
南多摩	3	1	35	78	1		7	8		1	5
多摩立川	2		39	84	4	1	4	7			4
多摩府中	9	5	29	148	15		6	10			43
多摩小平	7	7	67	115	15	2	7	8			29
島しょ											
東京都合計	88	51	616	2,253	142	16	110	133		5	192

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			28					2			2
中央区			19		2						
みなと			25					3	1		
新宿区			30		2			1			1
文京			37		3						
台東			14								
墨田区			23								
江東区			89								
品川区			19								
目黒区		1	34								
大田区		1	65		1						
世田谷	1	3	128					1			1
渋谷区			22		3			2			
中野区			53								
杉並			63								
池袋			21					1			2
北区			31								
荒川区			39		1						
板橋区		1	41								
練馬区			120		1						
足立			66								
葛飾区		1	51		3			5			1
江戸川		1	71								
八王子市		2	65		3			2			
町田市		2	68								
西多摩			65		1			1			
南多摩			38								
多摩立川			46					1			
多摩府中			124		1			9			2
多摩小平		3	76		2			1			
島しょ			2								
東京都合計	1	15	1,573		23			29	1		9

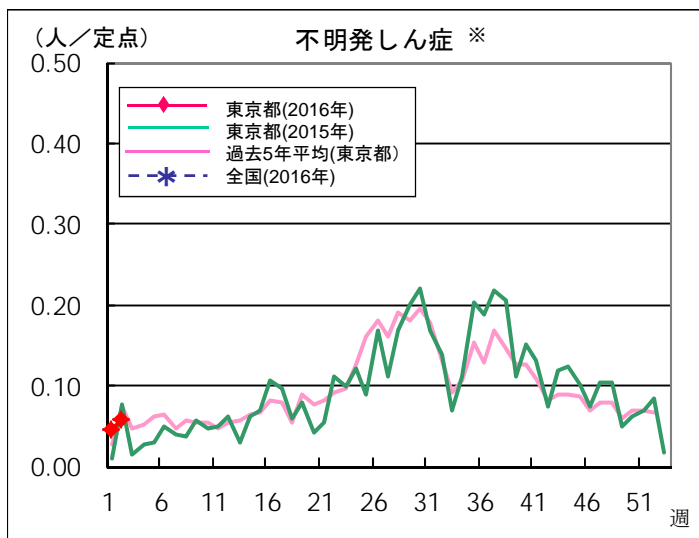
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2016年2週 現在)

◆ 小児科定点



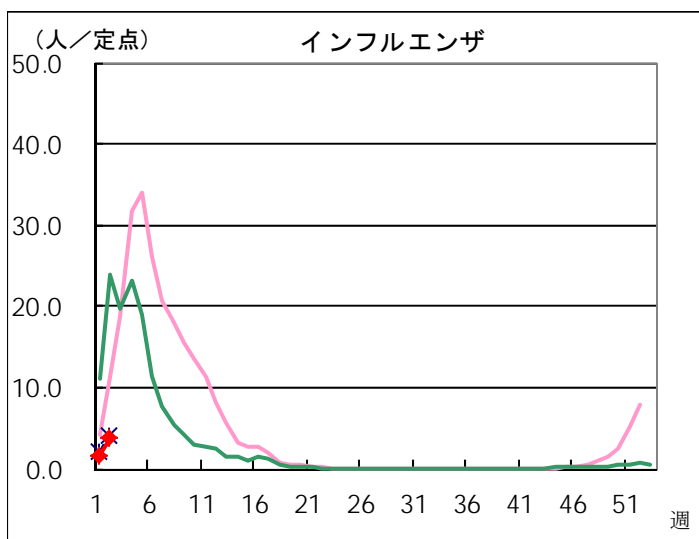


※ 東京都独自対象疾患

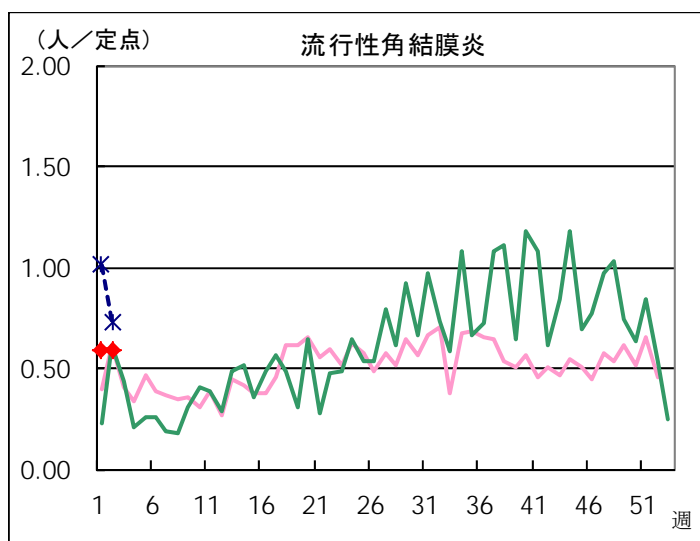
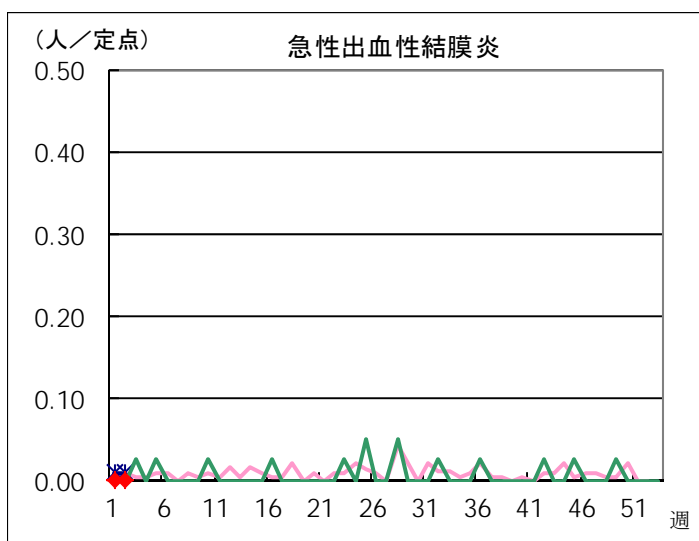


※ 東京都独自対象疾患

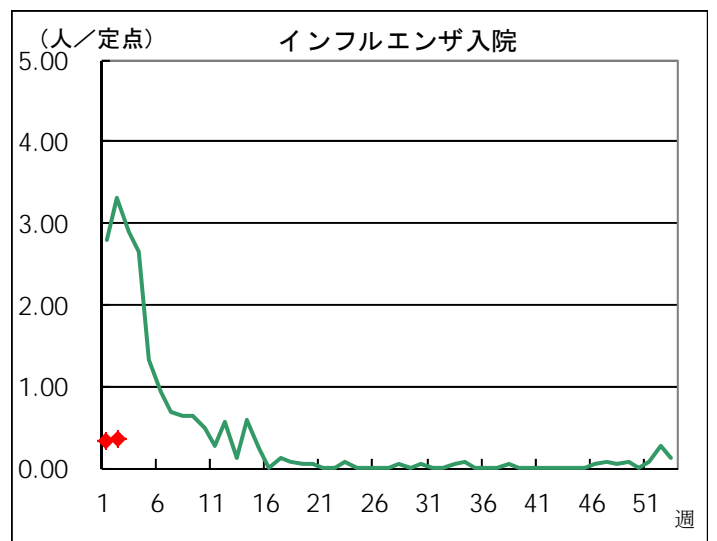
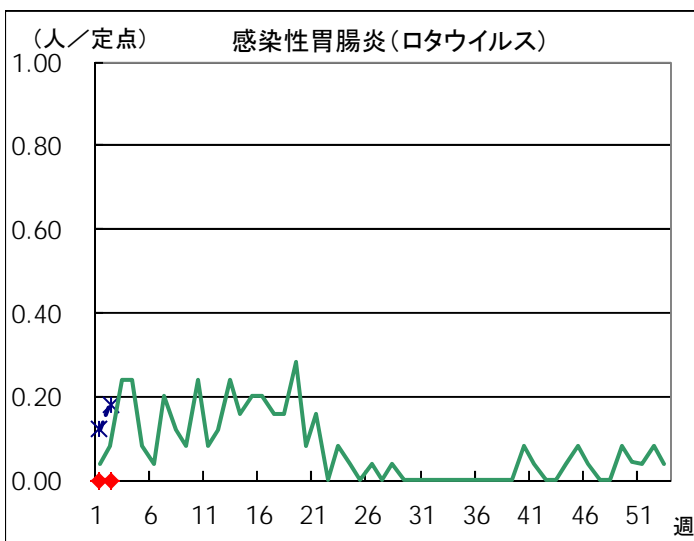
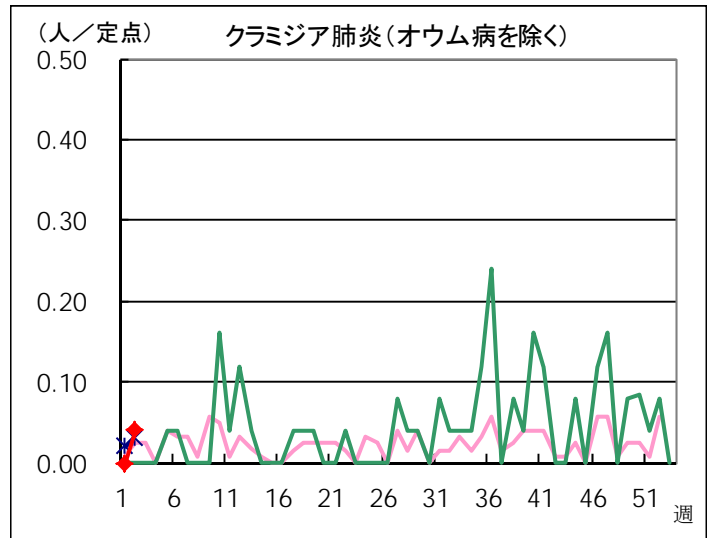
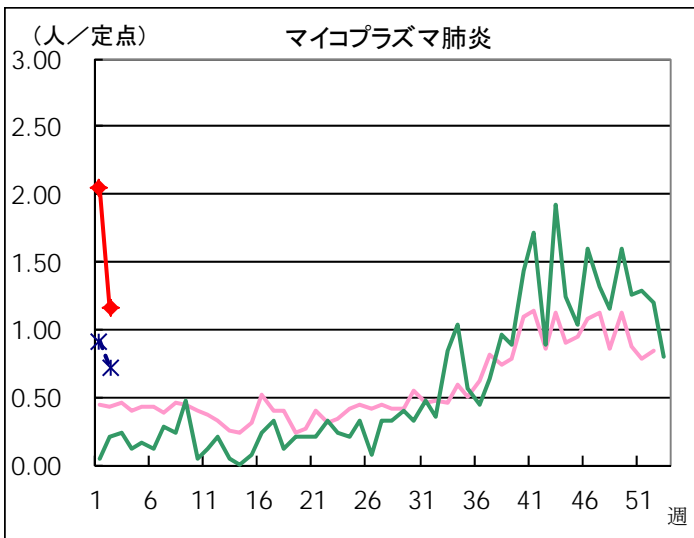
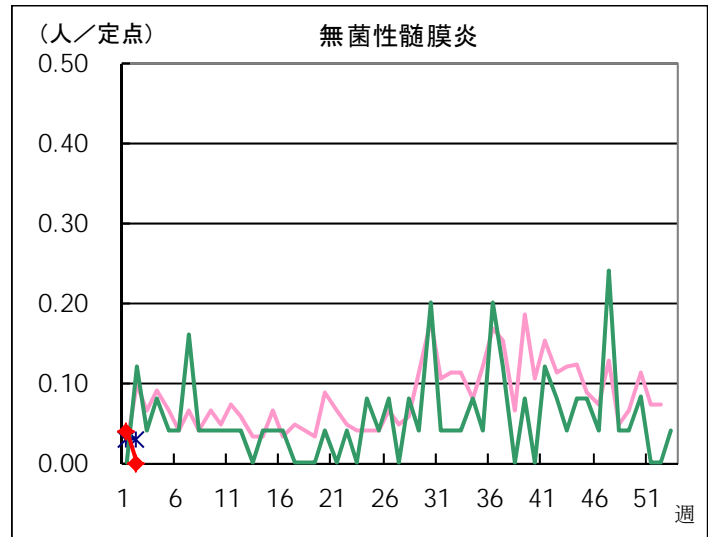
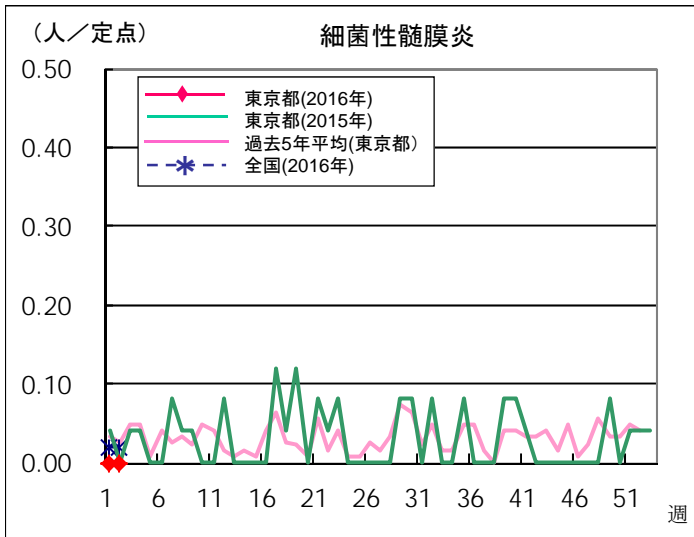
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
12/15	RSウイルス感染症	5M	咽頭拭い液	RSウイルス
12/14	感染性胃腸炎	7M	糞便	ノロウイルスG II アデノウイルス
12/14	RSウイルス感染症	8M	鼻汁	RSウイルス
12/14	咽頭結膜熱	1	咽頭拭い液	アデノウイルス 2型
12/17	咽頭結膜熱	1	咽頭拭い液	アデノウイルス
12/14	感染性胃腸炎	1	直腸拭い液	ノロウイルスG II
12/8	川崎病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス B群5型
12/9	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型
12/10	不明発しん症	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型
12/15	感染性胃腸炎	2	糞便	ノロウイルスG II
12/16	感染性胃腸炎	2	糞便	ノロウイルスG II
12/12	突発性発しん	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型
12/9	気管支炎	3	咽頭拭い液	ライノウイルス
12/17	インフルエンザ疑い	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス
12/11	水痘	4	咽頭拭い液	水痘帯状疱疹しんウイルス
12/14	咽頭結膜熱	7	咽頭拭い液	アデノウイルス
12/11	感染性胃腸炎	7	直腸拭い液	ノロウイルスG II
記載なし	流行性耳下腺炎	7	咽頭拭い液	ムンプスウイルス
12/14	インフルエンザ疑い	8	咽頭拭い液	インフルエンザウイルス AH1pdm09* ライノウイルス
12/12	咽頭結膜熱	10	咽頭拭い液	アデノウイルス
12/8	肝炎	12	咽頭拭い液	ライノウイルス
12/14	急性咽頭炎	13	咽頭拭い液	アデノウイルス

※ 下記「遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数」の集計数に含まれる。

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2015年51週	2		1	
2015-2016年 シーズン累計*	4		9	2

* 2015-2016年シーズンの開始は第36週(2015年8月31日～)

病原体検出情報 【週別】

検出病原体	2015年							
	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週
アデノウイルス	1	1	5	2		4	3	6
ライノウイルス	2	1	4	1	2	3	2	3
ポリオウイルス								
コクサッキーウイルスA群	1	3	4	4	1	2		
コクサッキーウイルスB群			1					1
エコーウイルス							1	
エンテロウイルス71								
その他のエンテロウイルス						1		1
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス								1
ヒトヘルペスウイルス6型・7型			2	1		1	1	3
EBウイルス	1							
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス	3		4	2				1
麻疹ウイルス						1		
風疹ウイルス								
ヒトパルボウイルスB19				1				
RSウイルス								2
ノロウイルス	1		2	2		3	5	5
ロタウイルス								
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型		1					2	1
インフルエンザウイルスB型			1					
インフルエンザウイルスAH1pdm09						1	1	2
デングウイルス								
その他のウイルス								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

2015年44週～2015年51週

	インフル エンザ	上気道 炎	下気道 炎	感染性 胃腸炎	無菌性 髄膜炎	咽頭結 膜熱	流行性 角結膜炎	ヘルパ ンギーナ	手足口 病	伝染性 紅斑	不明発 しん症	流行性 耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他
搬入検体数	35	12	24	33	24	7	4		13	5	18	10	2			18
アデノウイルス		2	2	5		6	3									4
ライノウイルス	3	3	8		2				1							1
ポリオウイルス																
コクサッキーウイルスA群		2	1		1				11							
コクサッキーウイルスB群																2
エコーウイルス											1					
エンテロウイルス71																
その他のエンテロウイルス	2															
単純ヘルペスウイルス																
水痘・帯状疱疹ウイルス													1			
ヒトヘルペスウイルス6型・7型											6					2
EBウイルス												1				
サイトメガロウイルス																
ムンプスウイルス					2							8				
麻疹ウイルス											1					
風しんウイルス																
ヒトパルボウイルスB19										1						
RSウイルス			2													
ノロウイルス				18												
ロタウイルス																
インフルエンザウイルスAH1亜型																
インフルエンザウイルスAH3亜型	4															
インフルエンザウイルスB型	1															
インフルエンザウイルスAH1pdm09	4															
デングウイルス																
その他のウイルス																
その他の病原体																

<感染症豆知識>

新たな人獣共通感染症

近年、新しい感染症の世界的な流行が問題となっている。それらの大多数が人獣共通感染症である。

2014年、西アフリカでアウトブレイクしたエボラウイルス病(EVD)は、過去最大の流行となり医療従事者を含む多数の感染者と死者を出した。1976年にスーダン、コンゴ民主共和国(旧ザイール)で初めて報告されたEVDが数千km離れた西アフリカで大規模発生したが、原因はオオコウモリの狩猟と捕食(ブッシュミート)によるヒトへの感染と言われ、地域の風俗習慣により大流行となった。韓国でアウトブレイクした中東呼吸器症候群(MERS)は、2012年に初めて中東で報告された新種のコロナウイルスによる感染症で、感染者とヒトコブラクダから分離したウイルスが同じであるため、ヒトコブラクダが感染原の1つに挙げられた。韓国でのMERS流行は初動対応の重要性を示唆した。2011年、中国で発見されたマダニによって媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、日本でも2012年に初めてSFTS患者が報告され、2015年9月までに西日本を中心に158名中43名の死亡者(27%)が報告されている。このSFTSウイルスは国内に存在していたと言う。東京では2014年、海外渡航歴のないヒトのデング熱が発生し、騒ぎになったことはご存じだろう。海外でデング熱に感染した者が、ヒトの集まる東京代々木公園で蚊に刺され、その蚊が他の人を刺すというヒト一蚊一ヒト感染が起こった。交通手段の目覚ましい発展による、人の移動と都市への集中によるものだ。

世界には800種以上の人獣共通感染症があり、新しく出現する環境は多いにある。その主な要因には都市化、森林破壊、生産活動の拡大、貧困、生活環境の変化などが挙げられる。人獣共通感染症の解決には医学、獣医学、生態学、また人類学など多分野の横断的な取り組みが重要だ。日本を一步離れば、そこは感染症に曝される。十分な知識を持って渡航するよう啓発が必要だ。

(文責 公益社団法人東京都獣医師会監事 池田忠生)